

イノベーション創出
に資する施設整備

学生の修学支援
に資する施設整備

グローバル化に
対応した施設整備

その他

学生、教職員が共同で運営するコミュニケーション・スペース



デザイン遺産の継承

基本情報

大学名：九州工業大学
建物名：鳳龍（ほうりゅう）会館
工期：平成19年9月～平成20年3月
構造・階数：RC・地上1階
延床面積：476㎡
事業費（設計費含む）：92,516千円



ランゲッジ・ラウンジ

整備の方向性

- 世界で活躍し、世界に通用する高度な技術者を養成する。**
 - ・開学以来「技術に堪能(かんのう)なる土君子」の養成を基本理念として、100年余にわたって、世界を先導する高度技術者を輩出するとともに、新しい技術を創出する研究開発を通して、わが国及び世界の産業発展に貢献してきた。
- 外国語のみを許可した空間を整備し、学生の主体的行動力、コミュニケーション力を向上させる。**
 - ・TOEICによる英語能力向上も大事であるが、国際的な場面で意見を戦わせることができるディベート力を身につけることも大事であることから、外国人との交流などを通じて英語など語学のスキルアップにつなげる。
- 学長のリーダーシップ**
 - ・教育研究の機能強化、グローバル化への対応、地域社会や産業界との連携に向けた施設整備を学長のリーダーシップのもと、計画的に推進している。

計画・設計上のポイント

- デザイン遺産を継承**
 - ・ランゲッジ・ラウンジは、鳳龍会館を改修して設けられた国際交流と外国語によるコミュニケーション・スペースである。鳳龍会館は、1955年の九州工業大学の創立50周年記念として建てられた、講堂と対になる建物（旧事務棟）であり、設計は、日本を代表する建築家「清家清」氏によるものである。
 - ・今回の改修整備では、創建当時のコンセプトを再現し、戸畑キャンパスの基本計画に尽力された辰野金吾氏や清家清氏の思想やデザイン遺産の継承を図り、明治専門学校からの歴史を意識しつつ、未来へつなげる施設再生を目指した。
 - ・正門を入ってすぐ正面の、大学の歴史を感じるシンボルエリアの森に、またひとつ新たな活気に満ちた空間が整備された。

Before



After



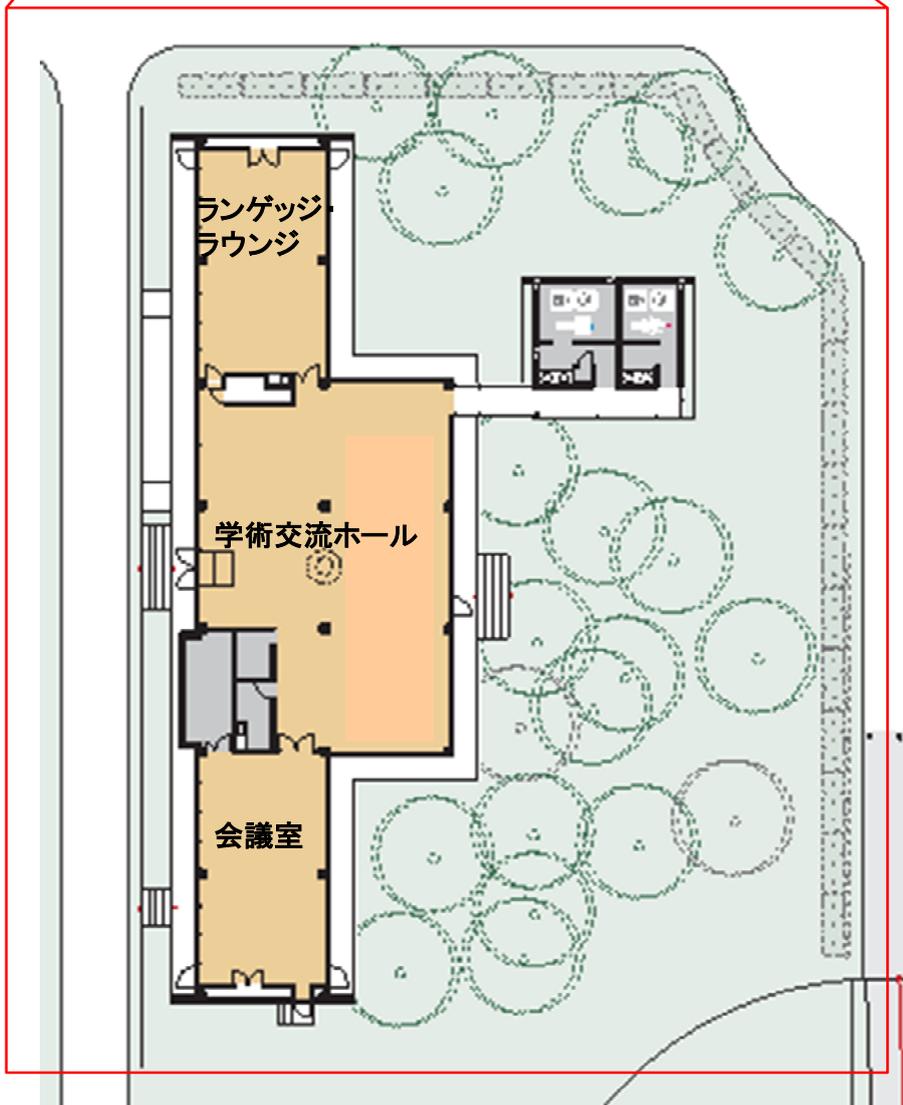
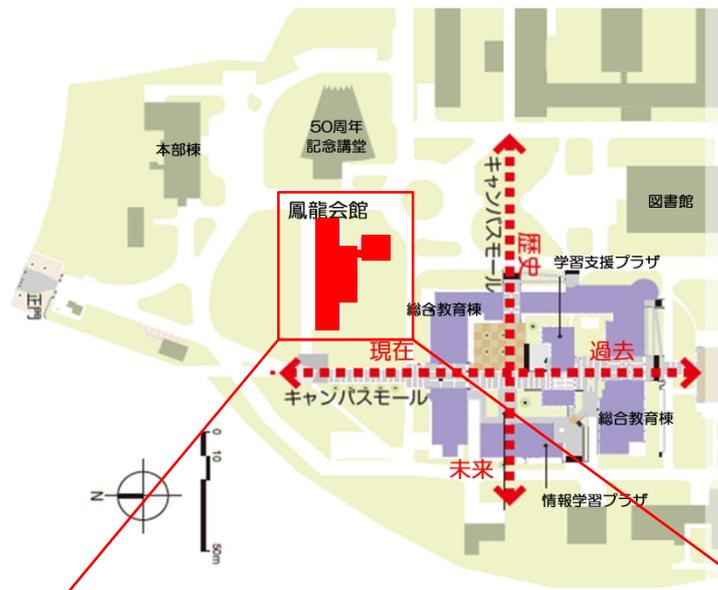
建物 外観



学術交流ホール



ランゲッジ・ラウンジ



施設整備の効果

○国際的なコミュニケーション力の向上

- ・ランゲッジ・ラウンジは、外国語のみが許可された学生主体の空間であり、海外派遣プログラムなどを支援する場、学生成果を披露できる場でもある。毎日、学生や留学生が自由に出入りし、にぎわいを見せており、国際的なコミュニケーション力の向上に寄与している。
具体的には、学生の海外派遣数の増加（H26年度(393人)はH22年度(157人)に比べて236人増）、留学生数の増（H27年度はH22年度に比べて26人増）、TOEIC得点の上昇（入学時より平均109点上昇）などの効果が見られている。

○学生、留学生、教職員が共同で運営

- ・ランゲッジ・ラウンジの運営に当たっては、工学部ランゲッジ・ラウンジ運営要領を制定し、(1)運営に関する基本方針に関する事、(2)予算概算の基本方針に関する事、(3)年間スケジュール及びイベントに関する事などを、工学部ランゲッジ・ラウンジ運営会議で審議している。
この運営会議には、国際交流サークル代表者（工学部生）も委員として出席し、学生、留学生の意見をくみ上げる仕組みとなっている。

○施設環境の充実

- ・本施設は、施設内での活動が外部からよく見えるようなガラス張りの施設であり、また建物のデザインに合わせたトイレを整備するなど、利用者の誰もが安心・安全・快適に利用できる施設となっている。



帰国報告会



イングリッシュパーティ